

事例発表

「食品残さなどの地域資源を活用し
地域に根ざした肉用牛経営」

農事組合法人 花房牧場 代表理事
綾 部 寿 雄

食品残さなどの地域資源を 活用し地域に根ざした 肉用牛経営



農事組合法人 花房牧場
代表理事 綾部 寿雄

1

内容

- 1 経営・地域概要
- 2 連携概要
- 3 食品残さの利用
- 4 食品残さ以外の地域資源活用
- 5 食肉加工・販売
- 6 地域との連携
- 7 今後の展望



2



地域の概要



島原半島

農業産出額
県全体の約45%を占める
大園芸地帯、畜産業も盛ん

肉用牛繁殖
391戸
6,362頭(県の25%)

加津佐町は半島の南部にあり
肉用牛農家は少なく、耕種農家が多い地域

営農と構成員



農事組合法人 花房牧場

- 設立: 昭和63年 生産組合 → 平成2年 法人設立
- 構成員: 4名 ■ 従業員: (常時雇用) 2名
- 経営内容(繁殖+経産肥育)(H28.4.1現在)

繁殖牛90頭、経産肥育牛16頭

■ 経営の特徴

- ① 豆腐粕飼料の製造と販売
- ② 放牧実施
- ③ 超早期離乳
- ④ 経産牛肥育
- ⑤ 堆肥の生産・販売



1 経営・地域概要

繁殖成績・子牛育成 (H28年次平均)

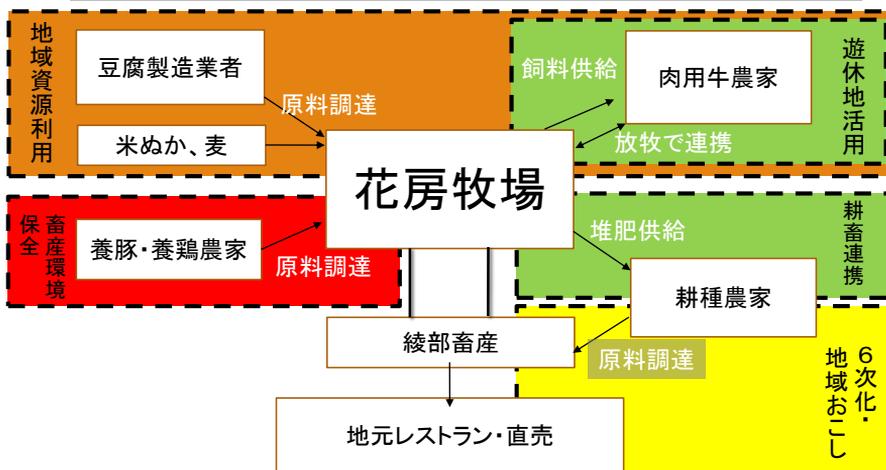
繁殖成績	
分娩間隔	367日
初回授精日数	63日
受胎までの日数	89日
母牛年齢	5.8歳

子牛育成		雌	去勢	全体
販売頭数	34	39	73	
日齢	302	284	292	
体重	288	302	295	
DG	0.96	1.07	1.01	

5

2 連携概要

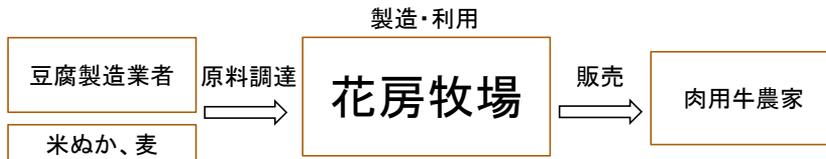
地域との連携概要



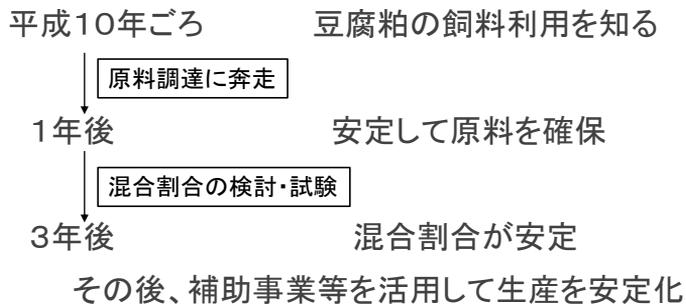
6

食品残さ飼料の利用概要

原料	豆腐粕150t、その他に ビール粕、米ぬかや麦
製造量	300t (うち肉用牛農家へ販売 100t)
製造頻度	週1回 (在庫状況を見て量を調整)
届出	飼料製造業者として、 混合飼料を製造



きっかけは飼料費の低減と『思いつき』



困難だったこと

原料調達、混合割合の安定化

原料・製造方法・給与状況

原料 豆腐粕、ビール粕、米ぬか、麦と濃厚飼料を混合

製造方法 「攪拌→密封し発酵(1ヶ月間)→販売・給与」
週1回製造し、3~4ヶ月間保存可能
繁殖牛、肥育牛など、それぞれの混合割合
20kg袋、フレコンバックなどの荷姿で近くの農家へも販売

給与状況 繁殖(維持期) 2kg/頭・日
肥育(7ヶ月以上給与) 10~12kg/頭・日
(他に粗飼料を1.5~2.0kg給与)

原料と混合割合

(原物重量ベース)	繁殖	肥育	備考
豆腐粕	53%	50%	年間150t程度
ふすま、ビール粕、ぬか類	26%	25%	麦は2級品利用
とうもろこし、麦	11%		
その他	10%	25%	ルーサンベレット、塩、カルシウム、配合飼料等

豆腐粕は週1回、豆腐製造業者へ取り行く。
その他の原料は牧場まで輸送される。



3 食品残さの利用

製造方法

【混合～保管】
作業人数: 2～3人
時間: 20分/フレコン



3 食品残さの利用

給与状況



成分(原物中)
DM: 52.4% DCP: 8.8% TDN: 40.1%

繁殖(維持期) 2kg/頭・日
(粗飼料: わら5kg 自給飼料2kg)



成分(原物中)
DM: 51.3% DCP: 7.4% TDN: 43.2%

肥育(7ヶ月以上給与) 10～12kg/頭・日
(粗飼料: 1.5～2.0kg)

給与状況2(繁殖)



嗜好性は良好



給与状況3(経産肥育)



繁殖性が悪い牛などを肥育



コストと収益

繁殖用(生産と販売)

製造費(円/kg)	原材料費	25円
	労賃	5円
飼料販売価格	フレコンバック850kg	2,700円
※税込	20kg袋	750円

肥育用(肥育牛生産)

飼料費(円/kg)	27円
	(原材料22円、労賃5円)
1頭仕上げまでの費用	70,000円

利用時の留意点【原料】

- 原料の成分に変動がある。
- 乾燥し、飛びやすくなるため、輸送時に注意必要。



利用時の留意点【製造方法】

- 発酵度合いの見極め
- 発酵によるガスの放出方法
- 冬季の発酵遅延、夏季の日焼け
- 飼料の腐敗防止のための機械
清掃(特に梅雨時期)



【失敗談】みそ粕を利用したら機械が錆びた



利用時の留意点【給与】

- 原料の成分変動を勘案して混合割合や粗飼料
給与量などを検討
- 給与量に応じた荷姿(5日以内に使い切る量)



耕種農家との連携

- 堆肥 用途に合わせた5種類の堆肥を約1400t/年製造
稲わら 30～35ha分の稲わら(およそ130t)と堆肥を交換
耕種の裏作 土作りを兼ねて、野菜等の裏作に自給飼料作付け



遊休化していた国有林での放牧

- 経緯 利用者がおらず遊休化していた施設を有効活用
したいと考えた
仲間と協力 5人の肉用牛農家で実施。5人とも増頭中。

特徴

- 分娩後1ヶ月間
放牧後、下牧して
種付けを行う



放牧再開前



21

県単補助事業利用による寒地型牧草地造成



22

綾部畜産と連携して展開

- 経産肥育牛は綾部畜産で一部
買い戻して加工・販売
- 地元のイベントとコラボし、BBQ場の
開設
- 販売は地元のレストランやネットでの販売



イルカウォッチングとBBQツアー



【評判】

肉質(肉色や脂質)がバイヤーや消費者から
高い評価をうけている。

新商品も開発『島原ハンバーグ』

自家産の経産肥育牛と地元のたまねぎ、塩、たまご、米を
利用し製造

【思い】(綾部畜産:綾部耕一)

○手塩にかけて育てた牛を一切れも無駄にすることなく、お
いしく食卓

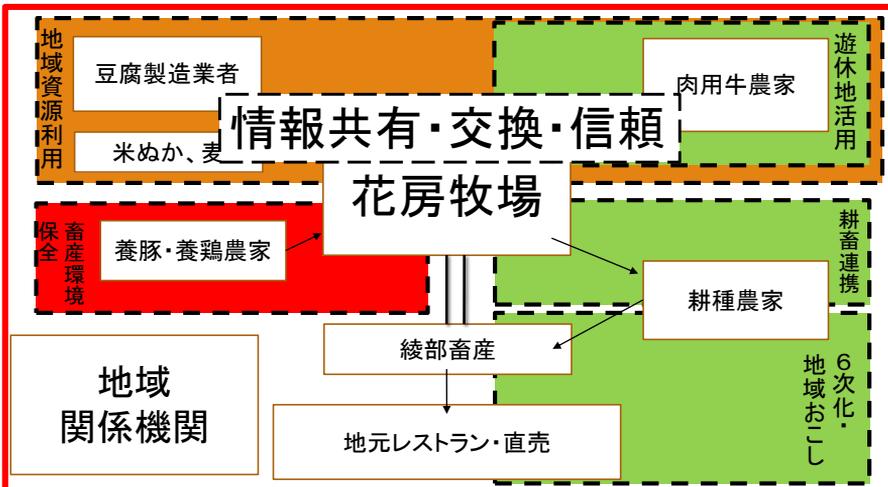
に届けたい。

○とことん地元の原料にこだわる。



6 地域との連携

『連携なくして肉用牛は成り立ず』



25

7 今後の展望

牛が人を育て、地域と共に成長

- 畜産就農を目指す後継者や若者などの研修受け入れ、一緒になって成長していきたい。
- 地域との連携をさらに深め、生産だけでなく、地域全体を盛り上げる取り組みのお手伝いをしていきたい。



26